

父
龍山が追い求めた「天目」

息子・清高の新しい「青磁」



青木龍山・清高作品展

令和6年 11月2日(土)→12月1日(日)

有田陶磁美術館2階 入館料 個人 120円/団体(20名以上) 80円/高校生以下 無料
主催 有田町

開館時間:午前9時~午後4時30分/休館日 毎週月曜日
〒844-0004 佐賀県西松浦郡有田町大樽1-4-2 tel. 0955-43-2678

掲載写真/青木龍山「融心」・青木清高「碧潮」
※「天目」・「青磁」以外の作品も展示しています。

青木龍山・清高作品展

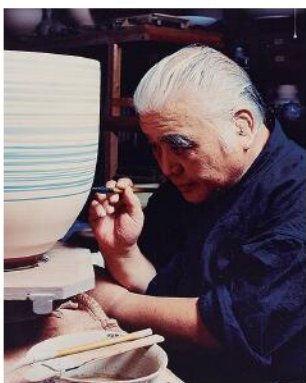
青木龍山氏は、日本芸術院会員であり、日展などでご活躍され、平成17年には文化勲章を受章されるなど、有田が誇る陶芸家の一人として足跡を残されました。

平成20年4月23日に81歳でご逝去されましたが、代表作とされた天目の作品をはじめとする独特な作風は、今もなお私たちが惹きつけてやみません。

ご子息の青木清高氏もまた、自然と調和した造形と、複雑な色合いを持つ新たな青磁の開拓者として数々の賞を受賞され、日展評議員を務めるなど、これからの陶芸界を牽引するお一人でしたが、平成27年4月14日に57歳でご逝去され、誰もがその早すぎる死を悼みました。

平成28年に青木家より、両氏の功績を永く記憶にとどめ、町内外の方々に鑑賞していただきたいというご意向を受け、ご自宅で大切に保管されていた作品47点（龍山氏28点、清高氏19点）などを、有田町にご寄贈いただきました。

今回の企画展では、頂いた作品のうち18点を厳選して公開します。龍山氏と清高氏の、長年の研鑽と創作活動の一端や、両氏の優れた作品が織り成す世界をじっくりとご堪能ください。



青木龍山 (久重)

Aoki Ryuzan

大正15年8月18日生

昭和29年(1954) 第10回日展に「花紋染付大皿」初出品、初入選

昭和46年(1971) 第3回日展に「豊」を出品、特選受賞

昭和48年(1973) 第12回日本現代工芸美術展に「豊延」を出品、会長賞、文部大臣賞受賞

昭和56年(1981) 日本現代工芸美術展に「容」特別会員賞。日本現代工芸美術家協会理事就任
第13回日展審査員

昭和63年(1988) 第27回日本現代工芸美術展に「天目韻律」を理事出品、文部大臣賞受賞

社団法人 日展評議員

平成 3年(1991) 第22回日展に「胡沙の舞」を出品、第47回日本芸術院賞受賞

社団法人 日展理事に就任

平成 4年(1992) 日本美術院会員に就任

平成 5年(1993) 第52回西日本文化賞受賞

平成 9年(1997) 第29回日展審査員。審査主任を務める

平成11年(1999) 文化功労章として顕彰される

平成17年(2005) 文化勲章受章

平成18年(2006) 有田町の名誉町民となる。美術部門では初の佐賀県県民栄誉賞を受賞

平成20年(2008) 逝去。従三位に叙せられる



青木清高

Aoki Kiyotaka

昭和32年8月12日生

昭和32年(1957) 青木龍山の長男として生まれる

昭和55年(1980) 長崎大学教育学美術科卒業。卒業と同時に中村清六先生に師事

昭和61年(1986) 日本現代工芸美術展「汀」25回記念賞受賞

平成 2年(1990) 日本現代工芸美術展 青磁花器「早春譜」会員賞受賞

平成 3年(1991) 佐賀県展工芸部門「連作、碧韻」第一席知事賞受賞
副賞永竹威賞受賞

平成 6年(1994) 第26回日展工芸部門青磁花器「潮満ちる時」特賞受賞

平成 7年(1995) 第5回佐賀銀行文化財団新人賞受賞

平成 9年(1997) 第36回日本現代工芸美術展「悠久の時」、現代工芸会長賞受賞

第29回日展工芸部門「夏の日の残像」再特選受賞

平成13年(2001) 第33回日展審査員

平成16年(2004) 第36回日展審査員

平成18年(2006) 現代工芸美術家協会の理事に就任

平成19年(2007) 第39回日展審査員

平成20年(2008) 日展評議員に就任

平成21年(2009) 第48回日本現代工芸展「海に映る月」内閣総理大臣賞受賞

紺綬褒章受章

平成27年(2015) 逝去